

教育研究業績書

2020年10月27日

所属：看護学科

資格：助教（臨床）

氏名：木村 清子

研究分野	研究内容のキーワード
基礎看護学	死後の処置、看護教育、看護技術
学位	最終学歴
修士（看護学）	武庫川女子大学大学院 看護学研究科 博士前期課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 学生の学習理解を深めるため、協同学習等の教育手法を活用して発言や事前学習を促進するようにした(3年課程看護専門学校の専任教員)	2014年～2017年	学生の学習理解を深めるため、協同学習等の教育手法を活用して教育実践をした。基礎看護・慢性期・老年期・急性期・終末期での演習・看護過程・実習指導・試験作成、学内外行事の企画運営、保健管理、クラス担任等を行った。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 武庫川女子大学看護学科 実習補助	2019年6月	2年生を対象に基礎看護学実習Ⅰの実習補助教員として学生が対象の療養生活とそれに伴う身体心理社会面・看護師の役割について、実習場面を活用しながら学生が学んだことと既習内容を言語化し、実習目標に沿って理解を深めることができるように指導をした。
2. 武庫川女子大学看護学科 実習補助	2019年2月～2019年3月	2年生を対象に基礎看護学実習Ⅱの実習補助教員として学生が既習内容・看護過程を活用しながら対象の理解を深めることができるように、実習場面・記録・知識を確認しながら今後の実習に繋がるよう指導を工夫した。
3. 武庫川女子大学看護学科 実習補助	2019年11月～2019年12月	3年生を対象に成人看護学急性期実習の実習補助教員として、学生が既習内容を活用し、協同しながら実習目標に沿って理解を深めることができるよう指導を工夫した。
4. 武庫川女子大学看護学科 演習補助	2018年7月	2年生を対象に基礎看護技術の清潔・食事・フィジカルアセスメントの技術で、学生が学んだ技術を根柢を踏まえて演習が行えるように確認しながら、技術習得につなげるように指導を行った。
5. 院内における死後の処置の教育	2007年4月～2013年3月	院内看護師が死後の処置のイメージができ看護技術の理解を深めていけるよう研修を行った。また院内のマニュアル・物品の整備、同好会を新設して技術指導やニュースレターの発行などの教育活動を行った。
6. 臨地実習指導者	2006年4月～2014年3月	学生が実習目標に到達できるよう、学生・指導者・教員が共有できる申し送り表を作成し、実習指導者が日々変わっても継続した指導が行えるよう工夫した。臨地実習指導者として学生への教育指導や病棟と教員との調整を行った。
7. 院内における与薬(薬液・注射)の教育	2006年4月～2014年3月	院内看護師の薬液・注射における看護技術の質の向上のため、院内看護師を対象に与薬技術の研修を行った。また安全な与薬が行われるようリスク対策と教育・指導・啓蒙活動を行った。
8. 新人看護師へのプリセプター	2005年4月～2007年3月	新人看護師が院内の業務を覚え、安全で精神的にも安定して看護が行えるよう、新人教育の計画や技術の習得状況等をスタッフと共有し、コミュニケーションをはかりながら病棟全体で成長を支援した。
4 その他		
1. 大阪市内の小・中学校教諭への講義・技術指導・教育	2018年3月～2020年3月	大阪市教育委員会インクルーシブ教育推進室が担当する医療的ケアが必要な児童が在籍する小・中学校の教諭に向けて、疾患や学校生活における対応等の講義、医療的ケアの技術教育・指導、緊急時対応マニュアル作成に携わった。
2. 地域連携病院看護師を対象とした死後の処置の講義	2011年7月	前勤務病院で地域連携する病院の訪問看護師を対象に死後の処置の講義を行った。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 日本協同教育学会 協同学習ベーシックコース 修了	2015年3月	学生が互いに学びあい、高まりあう人間関係に基づく協同学習の定義と留意点等を学んだ。
2. 日本協同教育学会 協同学習アドバンスコース 修了	2015年11月	学生の協同的な学習活動を支える技能の育成と、学生自身が自律的な学習者となるために必要な自己評価の力を伸ばすための教育方法について学んだ。
3. 大阪府専任教員養成講習会 修了	2014年11月	看護教育の基盤・看護論・看護教育学・看護学教育課程・看護学教育方法・看護学教育演習・看護学教育評価・

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
4. ACLS大阪2次救命処置コースインストラクター研修 修了	2005年1月	研究・看護学校経営等を学んだ。 系統的なアプローチに基づいて急変傷病者への対処やチーム蘇生の方法を習得するためのコースでの指導にあたるインストラクター養成について学んだ。
5. 看護師	2002年5月	登録番号 第1195581号
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
3 学術論文				
1. エンゼルメイクにおける死後の身体変化に対する看護師の認識調査	共	2008年10月	大阪府看護研究学会	院内看護師にエンゼルメイクの指導を開始したことに伴い、講義を受けた看護師と受けていない看護師のエンゼルメイクに対する認識の差を明らかにすることを目的に、死後の身体変化を考慮したエンゼルメイクについての質問紙調査を行った。結果として、死後に圧迫痕を作る原因と、開口への対処についての認識に有意差を認めた。 共同研究者：前田奈緒美 木村清子
2. 看護師のエンゼルメイクに対する意識調査	単	2006年12月	近畿地区看護研究学会	院内でのエンゼルメイクに対する意識を明らかにし、患者への最後の看護、家族への精神的ケアとして検討することを目的とし院内看護師を対象に質問紙調査を行った。 その結果、エンゼルメイクは死後の処置の一環として意識されており、患者への最期のケア、家族への精神的なケアである意識が強かった。時間・人数・物的なことや、患者状況・家族の精神的状態等の問題はあがるが、家族への精神的ケアとしては可能な限りエンゼルメイクに参加できるようにしたほうが良いことが示唆された。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. エンゼルメイクにおける死後の身体変化に対する看護師の認識調査	共	2008年10月	大阪府看護研究学会	院内看護師にエンゼルメイクの指導を開始したことに伴い、講義を受けた看護師と受けていない看護師のエンゼルメイクに対する認識の差を明らかにすることを目的に、死後の身体変化を考慮したエンゼルメイクについての質問紙調査を行った。結果として、死後に圧迫痕を作る原因と、開口への対処についての認識に有意差を認めた。 共同研究者：前田奈緒美 木村清子
2. 看護師のエンゼルメイクに対する意識調査	単	2006年12月	近畿地区看護研究学会	院内でのエンゼルメイクに対する意識を明らかにし、患者への最後の看護、家族への精神的ケアとして検討することを目的とし院内看護師を対象に質問紙調査を行った。 その結果、エンゼルメイクは死後の処置の一環として意識されており、患者への最期のケア、家族への精神的なケアである意識が強かった。時間・人数・物的なことや、患者状況・家族の精神的状態等の問題はあがるが、家族への精神的ケアとしては可能な限りエンゼルメイクに参加できるようにしたほうが良いことが示唆された。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2020年3月～	日本看護研究学会
2. 2019年7月～2020年4月	日本健康医学会
3. 2015年3月～2020年4月	日本協同教育学会